

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年2月13日

【四半期会計期間】 2022年12月第3四半期  
(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

【会社名】 トヨタ自動車株式会社

【英訳名】 TOYOTA MOTOR CORPORATION

【代表者の役職氏名】 取締役社長 豊田章男

【本店の所在の場所】 愛知県豊田市トヨタ町1番地

【電話番号】 <0565>28 - 2121

【事務連絡者氏名】 資本関連事業部長 森山由英

【最寄りの連絡場所】 東京都文京区後楽一丁目4番18号

【電話番号】 <03>3817 - 7111

【事務連絡者氏名】 広報部長 入江 晶

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

会計期間		2021年12月 前第3四半期 連結累計期間	2022年12月 当第3四半期 連結累計期間	2022年3月期
		自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
営業収益 (第3四半期連結会計期間)	(百万円)	23,267,041 (7,785,742)	27,464,033 (9,754,685)	31,379,507
税引前四半期(当期)利益 (第3四半期連結会計期間)	(百万円)	3,237,553 (1,093,508)	2,869,274 (1,034,998)	3,990,532
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (第3四半期連結会計期間)	(百万円)	2,316,222 (791,738)	1,899,026 (727,942)	2,850,110
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益	(百万円)	2,560,199	2,353,007	3,954,350
親会社の所有者に帰属する持分	(百万円)	24,939,554	27,535,825	26,245,969
総資産	(百万円)	63,618,063	71,580,587	67,688,771
基本的1株当たり親会社の所有者に 帰属する四半期(当期)利益 (第3四半期連結会計期間)	(円)	166.45 (57.18)	138.78 (53.40)	205.23
希薄化後1株当たり親会社の所有者に 帰属する四半期(当期)利益 (第3四半期連結会計期間)	(円)	166.45 (-)	- (-)	205.23
親会社所有者帰属持分比率	(%)	39.2	38.5	38.8
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	2,641,508	1,825,923	3,722,615
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	174,240	1,513,593	577,496
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	2,252,218	497,181	2,466,516
現金及び現金同等物四半期末(期末) 残高	(百万円)	5,770,225	6,022,089	6,113,655

- (注) 1 当社の要約四半期連結財務諸表は、国際財務報告基準(以下、IFRSという。)に基づいて作成していません。
- 2 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 3 2021年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っています。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、基本的1株当たり親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益および希薄化後1株当たり親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益を算定しています。
- 4 2021年4月2日に第1回AA型種類株式の残存する全部の取得および2021年4月3日に第1回AA型種類株式の全部の消却を完了しており、前第3四半期連結会計期間、当第3四半期連結累計期間および当第3四半期連結会計期間において、潜在株式が存在しないため希薄化後1株当たり親会社の所有者に帰属する四半期利益は記載していません。

#### 2 【事業の内容】

要約四半期連結財務諸表提出会社(以下、当社という。)は、IFRSに準拠して要約四半期連結財務諸表を作成しており、関係会社の範囲についてもIFRSの定義に基づいています。「第2 事業の状況」においても同様です。

当社および当社の関係会社においては、自動車事業を中心に、金融事業およびその他の事業を行っています。

当第3四半期連結累計期間において、当社および当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、当該事業に携わっている主要な関係会社に異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、事業等のリスクについて新たに生じた重要な事項および重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における日本、海外を合わせた自動車の連結販売台数は、649万1千台と、前年同四半期連結累計期間に比べて39万4千台（6.5%）の増加となりました。日本での販売台数については、140万2千台と、前年同四半期連結累計期間に比べて2万5千台（1.8%）の減少となりました。海外においては、508万9千台と、前年同四半期連結累計期間に比べて42万台（9.0%）の増加となりました。

当第3四半期連結累計期間の業績については、次のとおりです。

営業収益	27兆4,640億円	（前年同期比増減	4兆1,969億円	（18.0%）
営業利益	2兆980億円	（前年同期比増減	4,337億円	（17.1%）
税引前 四半期利益	2兆8,692億円	（前年同期比増減	3,682億円	（11.4%）
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1兆8,990億円	（前年同期比増減	4,171億円	（18.0%）

なお、営業利益の主な増減要因は、次のとおりです。

営業面の努力	3,000億円
為替変動の影響	1兆450億円
原価改善の努力	9,400億円
諸経費の増減・低減努力	4,150億円
その他	4,237億円

事業別セグメントの業績は、次のとおりです。

#### a. 自動車事業

営業収益は25兆5億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて3兆8,015億円（17.9%）の増収となりましたが、営業利益は1兆7,217億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて2,313億円（11.8%）の減益となりました。営業利益の減益は、資材高騰の影響などによるものです。

#### b. 金融事業

営業収益は2兆981億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて3,633億円（20.9%）の増収となりましたが、営業利益は3,239億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて2,311億円（41.6%）の減益となりました。営業利益の減益は、米国の販売金融子会社において、金利スワップ取引などの時価評価による評価損が計上されたことなどによるものです。

#### c. その他の事業

営業収益は8,456億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて830億円（10.9%）の増収となり、営業利益は571億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて368億円（181.2%）の増益となりました。

所在地別の業績は、次のとおりです。

a. 日本

営業収益は12兆7,721億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて8,837億円（7.4%）の増収となり、営業利益は1兆5,413億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて3,357億円（27.8%）の増益となりました。営業利益の増益は、為替変動の影響などによるものです。

b. 北米

営業収益は10兆4,624億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて2兆1,891億円（26.5%）の増収となりましたが、営業利益は前年同四半期連結累計期間に比べて6,416億円減少し、890億円の損失となりました。営業利益の減少は、資材高騰の影響および米国の販売金融子会社において、金利スワップ取引などの時価評価による評価損が計上されたことなどによるものです。

c. 欧州

営業収益は3兆680億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて1,805億円（6.3%）の増収となりましたが、営業利益は167億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて1,197億円（87.8%）の減益となりました。営業利益の減益は、ロシアでの生産事業終了による損失計上の影響などによるものです。なお、当第3四半期連結累計期間におけるロシアでの生産事業終了による影響額は1,040億円となり、欧州における影響額は952億円です。

d. アジア

営業収益は6兆1,330億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて1兆4,499億円（31.0%）の増収となり、営業利益は5,603億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて607億円（12.2%）の増益となりました。営業利益の増益は、生産および販売台数の増加ならびに為替変動の影響などによるものです。

e. その他の地域（中南米、オセアニア、アフリカ、中近東）

営業収益は2兆6,434億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて5,486億円（26.2%）の増収となりましたが、営業利益は1,760億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて238億円（11.9%）の減益となりました。営業利益の減益は、資材高騰の影響などによるものです。

財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末における財政状態については、次のとおりです。

総資産は71兆5,805億円と、前連結会計年度末に比べて3兆8,918億円（5.7%）の増加となりました。負債は43兆1,305億円と、前連結会計年度末に比べて2兆5,966億円（6.4%）の増加となりました。資本は28兆4,500億円と、前連結会計年度末に比べて1兆2,952億円（4.8%）の増加となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は6兆220億円と、前連結会計年度末に比べて915億円(1.5%)の減少となりました。

当第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況と、前年同四半期連結累計期間に対するキャッシュ・フローの増減は、次のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、1兆8,259億円の資金の増加となり、前年同四半期連結累計期間が2兆6,415億円の増加であったことに比べて、8,155億円の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、1兆5,135億円の資金の減少となり、前年同四半期連結累計期間が1,742億円の増加であったことに比べて、1兆6,878億円の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、4,971億円の資金の減少となり、前年同四半期連結累計期間が2兆2,522億円の減少であったことに比べて、1兆7,550億円の減少幅の縮小となりました。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について、重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社および連結子会社の研究開発支出は9,195億円です。また、要約四半期連結損益計算書に計上している研究開発費は9,100億円です。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000,000
計	50,000,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	16,314,987,460	16,314,987,460	東京、名古屋、ニュー ヨーク、ロンドン各証 券取引所(東京はプライ ム市場、名古屋はプレ ミア市場)	単元株式数 100株 (注)
計	16,314,987,460	16,314,987,460	-	-

(注) 発行済株式は、すべて議決権を有する株式です。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年10月1日～ 2022年12月31日		16,314,987		635,402		655,323

## (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、直前の基準日（2022年9月30日）に基づく株主名簿により記載しています。

## 【発行済株式】

2022年9月30日現在			
区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等) (注)1	普通株式 2,660,906,100	-	-
完全議決権株式(その他) (注)2	普通株式 13,650,725,600	136,507,256	-
単元未満株式	普通株式 3,355,760	-	-
発行済株式総数	16,314,987,460	-	-
総株主の議決権	-	136,507,256	-

(注) 1 「完全議決権株式(自己株式等)」は、自己株式2,627,500,400株と相互保有株式33,405,700株です。

2 「完全議決権株式(その他)」には、(株)証券保管振替機構名義の株式が20,200株(議決権202個)含まれています。

## 【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
トヨタ自動車(株) [自己株式]	愛知県豊田市トヨタ町 1番地	2,627,500,400	-	2,627,500,400	16.11
豊田合成(株)	愛知県清須市春日長畑 1番地	9,091,100	-	9,091,100	0.06
名古屋テレビ放送(株)	愛知県名古屋市中区橋 二丁目10番1号	4,500,000	-	4,500,000	0.03
フタバ産業(株)	愛知県岡崎市橋目町 字御茶屋1番地	4,081,500	-	4,081,500	0.03
豊田鉄工(株)	愛知県豊田市細谷町 四丁目50番地	2,500,000	-	2,500,000	0.02
アイシン高丘(株)	愛知県豊田市高丘新町 天王1番地	2,420,300	-	2,420,300	0.01
トヨタ瑞浪開発(株)	岐阜県瑞浪市日吉町 8671番地の1	2,294,800	-	2,294,800	0.01
(株)デンソーテン	兵庫県神戸市兵庫区 御所通一丁目2番28号	1,736,900	-	1,736,900	0.01
豊臣機工(株)	愛知県安城市今本町 東向山7番地	1,585,800	-	1,585,800	0.01
トヨタ紡織(株)	愛知県刈谷市豊田町 一丁目1番地	1,242,400	-	1,242,400	0.01
京三電機(株)	茨城県古河市丘里 11番地3	1,112,000	-	1,112,000	0.01
ナミコー(株)	兵庫県伊丹市東有岡 一丁目65番地	700,000	-	700,000	0.00
トリニティ工業(株)	愛知県豊田市柿本町 一丁目9番地	500,000	-	500,000	0.00
共和レザー(株)	静岡県浜松市南区東町 1876番地	500,000	-	500,000	0.00
愛三工業(株)	愛知県大府市共和町 一丁目1番地の1	488,800	-	488,800	0.00
(株)東海理化電機製作所	愛知県丹羽郡大口町 豊田三丁目260番地	389,900	-	389,900	0.00
大豊工業(株)	愛知県豊田市緑ヶ丘 三丁目65番地	76,000	-	76,000	0.00
(株)徳島ダイハツモーターズ	徳島県徳島市論田町 本浦下84番地	65,000	-	65,000	0.00
アイシン軽金属(株)	富山県射水市奈呉の江 12番地の3	49,500	-	49,500	0.00
(株)メタルアート	滋賀県草津市野路 三丁目2番18号	39,000	-	39,000	0.00
(株)浅野歯車工作所	大阪府大阪狭山市東池尻 四丁目1402番地の1	31,400	-	31,400	0.00
津田工業(株)	愛知県刈谷市幸町 一丁目1番地1	1,300	-	1,300	0.00
計	-	2,660,906,100	-	2,660,906,100	16.31

(注) 自己株式等は受渡日を基準として算定したものです。

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりです。

### (1) 新任役員

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)	就任年月日
監査役	酒井 竜児	1957年8月7日生	2000年1月 2022年12月	長島・大野・常松法律 事務所パートナー就任 当社監査役就任	(注)2		2022年12月1日

(注)1 監査役 酒井 竜児は、社外監査役です。

2 監査役 酒井 竜児の任期は、就任の時から2023年3月期に係る定時株主総会終結の時までです。

### (2) 退任役員

役職名	氏名	退任年月日
監査役	和 気 洋 子	2022年11月30日

### (3) 異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性14名 女性1名 (役員のうち女性の比率7%)

## 第4 【経理の状況】

### 1 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下、「四半期連結財務諸表規則」という。）第93条の規定を適用し、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下、「IAS第34号」という。）に準拠して作成しています。

また、要約四半期連結財務諸表の記載金額は、百万円未満の端数を四捨五入して表示しています。各数値の合計が合計額と一致しない場合があります。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）および第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）にかかる要約四半期連結財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けています。

## 1 【要約四半期連結財務諸表】

## (1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2022年12月31日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		6,113,655	6,022,089
営業債権及びその他の債権		3,142,832	3,265,428
金融事業に係る債権		7,181,327	8,075,376
その他の金融資産		2,507,248	2,029,081
棚卸資産		3,821,356	4,034,114
未収法人所得税		163,925	326,762
その他の流動資産		791,947	1,007,108
流動資産合計		23,722,290	24,759,957
非流動資産			
持分法で会計処理されている投資		4,837,895	5,101,573
金融事業に係る債権		14,583,130	16,191,681
その他の金融資産		9,517,267	10,329,000
有形固定資産			
土地		1,361,791	1,387,207
建物		5,284,620	5,431,377
機械装置		13,982,362	14,558,111
賃貸用車両及び器具		6,781,229	6,763,626
建設仮勘定		565,528	740,411
小計		27,975,530	28,880,733
減価償却累計額及び減損損失 累計額<控除>		15,648,890	16,457,677
有形固定資産合計		12,326,640	12,423,056
使用権資産		448,412	466,286
無形資産		1,191,966	1,218,945
繰延税金資産		342,202	387,221
その他の非流動資産		718,968	702,868
非流動資産合計		43,966,482	46,820,630
資産合計		67,688,771	71,580,587

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債</b>			
<b>流動負債</b>			
営業債務及びその他の債務		4,292,092	4,227,787
有利子負債		11,187,839	11,898,754
未払費用		1,520,446	1,494,503
その他の金融負債		1,046,050	1,461,413
未払法人所得税		826,815	345,653
品質保証に係る負債		1,555,711	1,716,014
その他の流動負債		1,413,208	1,558,904
流動負債合計		21,842,161	22,703,027
<b>非流動負債</b>			
有利子負債		15,308,519	16,560,084
その他の金融負債		461,583	654,461
退職給付に係る負債		1,022,749	1,059,060
繰延税金負債		1,354,794	1,554,300
その他の非流動負債		544,145	599,632
非流動負債合計		18,691,790	20,427,537
<b>負債合計</b>		40,533,951	43,130,564
<b>資本</b>			
資本金		397,050	397,050
資本剰余金		498,575	499,408
利益剰余金		26,453,126	27,696,192
その他の資本の構成要素		2,203,254	2,585,216
自己株式		3,306,037	3,642,041
親会社の所有者に帰属する持分合計		26,245,969	27,535,825
非支配持分		908,851	914,198
<b>資本合計</b>		27,154,820	28,450,023
<b>負債及び資本合計</b>		67,688,771	71,580,587

## (2) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

## 【要約四半期連結損益計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (2021年12月31日に終了 した9ヶ月間)	当第3四半期連結累計期間 (2022年12月31日に終了 した9ヶ月間)
営業収益			
商品・製品売上収益	8	21,549,344	25,383,850
金融事業に係る金融収益	8	1,717,697	2,080,183
営業収益合計	8	23,267,041	27,464,033
売上原価並びに販売費及び 一般管理費			
売上原価		17,817,966	21,435,002
金融事業に係る金融費用		834,483	1,280,860
販売費及び一般管理費		2,082,757	2,650,076
売上原価並びに販売費及び 一般管理費合計		20,735,205	25,365,938
営業利益		2,531,835	2,098,095
持分法による投資損益		415,524	474,716
その他の金融収益		252,415	307,518
その他の金融費用		25,552	108,313
為替差損益<純額>		91,196	128,375
その他<純額>		27,866	31,118
税引前四半期利益		3,237,553	2,869,274
法人所得税費用		853,654	905,153
四半期利益		2,383,898	1,964,122
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		2,316,222	1,899,026
非支配持分		67,677	65,096
四半期利益		2,383,898	1,964,122

(単位：円)

1株当たり親会社の所有者に帰属する 四半期利益			
基本的	9	166.45	138.78
希薄化後	9	166.45	-

## 【要約四半期連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (2021年12月31日に終了 した9ヶ月間)	当第3四半期連結累計期間 (2022年12月31日に終了 した9ヶ月間)
四半期利益		2,383,898	1,964,122
その他の包括利益(税効果考慮後)			
純損益に振り替えられることのない項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産の公正価値変動		173,195	29,503
確定給付制度の再測定		7,024	12,242
持分法で会計処理されている投資の その他の包括利益に対する持分相当額		71,531	109,051
合計		108,688	150,797
純損益に振り替えられる可能性のある 項目			
在外営業活動体の為替換算差額		272,163	529,140
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産の公正価値変動		19,802	170,000
持分法で会計処理されている投資の その他の包括利益に対する持分相当額		107,623	251,886
合計		359,984	611,026
その他の包括利益(税効果考慮後)合計		251,296	460,229
四半期包括利益		2,635,194	2,424,351
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者		2,560,199	2,353,007
非支配持分		74,995	71,344
四半期包括利益		2,635,194	2,424,351

## 【第3四半期連結会計期間】

## 【要約四半期連結損益計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日に終了 した3ヶ月間)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日に終了 した3ヶ月間)
営業収益			
商品・製品売上収益	8	7,204,419	9,019,920
金融事業に係る金融収益	8	581,323	734,765
営業収益合計	8	7,785,742	9,754,685
売上原価並びに販売費及び 一般管理費			
売上原価		5,975,051	7,385,754
金融事業に係る金融費用		284,691	435,638
販売費及び一般管理費		741,629	976,641
売上原価並びに販売費及び 一般管理費合計		7,001,371	8,798,033
営業利益		784,370	956,652
持分法による投資損益		154,482	170,093
その他の金融収益		136,542	110,164
その他の金融費用		9,193	37,963
為替差損益<純額>		47,800	163,080
その他<純額>		20,495	868
税引前四半期利益		1,093,508	1,034,998
法人所得税費用		274,665	290,432
四半期利益		818,842	744,566
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		791,738	727,942
非支配持分		27,104	16,624
四半期利益		818,842	744,566

(単位：円)

1株当たり親会社の所有者に帰属する 四半期利益			
基本的	9	57.18	53.40
希薄化後	9	-	-

## 【要約四半期連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日に終了 した3ヶ月間)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日に終了 した3ヶ月間)
四半期利益		818,842	744,566
その他の包括利益(税効果考慮後)			
純損益に振り替えられないことのない項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産の公正価値変動		253,398	55,682
確定給付制度の再測定		1,684	3,546
持分法で会計処理されている投資の その他の包括利益に対する持分相当額		9,639	28,947
合計		261,353	88,175
純損益に振り替えられる可能性のある 項目			
在外営業活動体の為替換算差額		204,025	714,507
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産の公正価値変動		17,659	13,228
持分法で会計処理されている投資の その他の包括利益に対する持分相当額		21,314	14,675
合計		207,680	686,605
その他の包括利益(税効果考慮後)合計		53,672	774,780
四半期包括利益		765,170	30,214
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者		727,679	18,411
非支配持分		37,491	11,803
四半期包括利益		765,170	30,214

## (3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第3四半期連結累計期間(2021年12月31日に終了した9ヶ月間)

(単位:百万円)

	注記	親会社の所有者に帰属する持分					非支配持分	資本合計	
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の資本の構成要素	自己株式			合計
2021年4月1日現在残高		397,050	497,275	24,104,176	1,307,726	2,901,680	23,404,547	883,782	24,288,329
四半期包括利益									
四半期利益		-	-	2,316,222	-	-	2,316,222	67,677	2,383,898
その他の包括利益 (税効果考慮後)		-	-	-	243,978	-	243,978	7,319	251,296
四半期包括利益合計		-	-	2,316,222	243,978	-	2,560,199	74,995	2,635,194
所有者との取引等									
配当金の支払	7	-	-	709,872	-	-	709,872	51,464	761,335
自己株式の取得		-	-	-	-	316,602	316,602	-	316,602
自己株式の処分		-	227	-	-	362	588	-	588
その他		-	692	-	-	-	692	7,857	8,549
所有者との取引等合計		-	919	709,872	-	316,240	1,025,193	43,607	1,068,800
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		-	-	37,582	37,582	-	-	-	-
2021年12月31日現在残高		397,050	498,194	25,748,108	1,514,122	3,217,920	24,939,554	915,170	25,854,724

当第3四半期連結累計期間(2022年12月31日に終了した9ヶ月間)

(単位:百万円)

	注記	親会社の所有者に帰属する持分					非支配持分	資本合計	
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の資本の構成要素	自己株式			合計
2022年4月1日現在残高		397,050	498,575	26,453,126	2,203,254	3,306,037	26,245,969	908,851	27,154,820
四半期包括利益									
四半期利益		-	-	1,899,026	-	-	1,899,026	65,096	1,964,122
その他の包括利益 (税効果考慮後)		-	-	-	453,981	-	453,981	6,248	460,229
四半期包括利益合計		-	-	1,899,026	453,981	-	2,353,007	71,344	2,424,351
所有者との取引等									
配当金の支払	7	-	-	727,980	-	-	727,980	84,573	812,552
自己株式の取得		-	-	-	-	336,577	336,577	-	336,577
自己株式の処分		-	334	-	-	573	907	-	907
その他		-	499	-	-	-	499	18,575	19,074
所有者との取引等合計		-	833	727,980	-	336,004	1,063,151	65,997	1,129,148
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		-	-	72,019	72,019	-	-	-	-
2022年12月31日現在残高		397,050	499,408	27,696,192	2,585,216	3,642,041	27,535,825	914,198	28,450,023

## (4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (2021年12月31日に終了 した9ヶ月間)	当第3四半期連結累計期間 (2022年12月31日に終了 した9ヶ月間)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
四半期利益		2,383,898	1,964,122
減価償却費及び償却費		1,342,533	1,534,759
金融事業に係る利息収益及び利息費用		260,886	534,217
持分法による投資損益		415,524	474,716
法人所得税費用		853,654	905,153
資産及び負債の増減ほか		1,282,577	1,432,634
利息の受取額		615,939	1,082,133
配当金の受取額		345,315	459,340
利息の支払額		290,328	401,044
法人所得税の支払額		650,517	1,276,972
営業活動によるキャッシュ・フロー		2,641,508	1,825,923
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の購入< 賃貸資産を除く >		856,035	1,095,573
賃貸資産の購入		1,827,035	1,406,217
有形固定資産の売却< 賃貸資産を除く >		23,764	35,211
賃貸資産の売却		1,146,734	1,261,624
無形資産の取得		245,252	253,581
公社債及び株式の購入		1,790,122	1,104,568
公社債及び株式の売却及び公社債の満期償還		1,935,300	941,742
その他	10	1,786,885	107,768
投資活動によるキャッシュ・フロー		174,240	1,513,593
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期有利子負債の純増減額( は減少)		403,532	222,629
長期有利子負債の増加		6,162,921	6,591,101
長期有利子負債の返済		6,933,945	6,161,781
親会社の所有者への配当金の支払額	7	709,872	727,980
非支配持分への配当金の支払額		51,464	84,573
自己株式の取得( )及び処分		316,327	336,577
財務活動によるキャッシュ・フロー		2,252,218	497,181
現金及び現金同等物に対する為替変動の影響額		105,838	93,285
現金及び現金同等物純増減額( は減少)		669,368	91,566
現金及び現金同等物期首残高		5,100,857	6,113,655
現金及び現金同等物四半期末残高		5,770,225	6,022,089

## 【要約四半期連結財務諸表注記】

### 1. 報告企業

当社は、日本に所在する株式会社であり、その本社は愛知県豊田市に登記されています。当第3四半期連結会計期間（2022年12月31日に終了した3ヶ月間）および当第3四半期連結累計期間（2022年12月31日に終了した9ヶ月間）の要約四半期連結財務諸表は、当社および連結子会社（以下、トヨタという。）ならびに関連会社および共同支配企業に対する持分により構成されています。

当社および当社の関係会社は主にセダン、ミニバン、コンパクト、SUV、トラック等の自動車とその関連部品・用品の設計、製造および販売を世界的規模で行っています。また、当社および当社の関係会社が製造する自動車および他の製品の販売を補完するための金融ならびに車両のリース事業を、主として販売代理店およびその顧客に対して行っています。

### 2. 作成の基礎

#### (1) IFRSに準拠している旨

トヨタの要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たしており、同規則第93条の規定によりIAS第34号に準拠して作成しています。要約四半期連結財務諸表は、連結会計年度の連結財務諸表で要求されるすべての情報が含まれていないため、前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものです。

当要約四半期連結財務諸表は、2023年2月9日に取締役会にて承認されています。

#### (2) 測定の基礎

トヨタの要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定する金融商品、退職給付に係る負債等を除き、取得原価を基礎として作成しています。

#### (3) 機能通貨及び表示通貨

トヨタの要約四半期連結財務諸表の表示通貨は、当社の機能通貨である日本円であり、百万円未満を四捨五入しています。各数値の合計が合計額と一致しない場合があります。

### 3. 重要な会計方針

トヨタの要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度にかかる連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

### 4. 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

トヨタは、IFRSに準拠した要約四半期連結財務諸表を作成するにあたり、会計方針の適用、資産・負債および収益・費用の報告額ならびに偶発資産・偶発債務の開示に影響を及ぼす判断、見積りおよび仮定の設定を行っています。実際の結果は、これらの見積りとは異なる場合があります。なお、これらの見積りおよび仮定は継続して見直しています。会計上の見積りの変更による影響は、見積りを変更した報告期間およびその影響を受ける将来の報告期間において認識しています。

本要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断は、原則として前連結会計年度にかかる連結財務諸表と同様です。

## 5. セグメント情報

## (1) 報告セグメントの概要

以下に報告されているオペレーティング・セグメントは、そのセグメントの財務情報が入手可能なもので、その営業損益がマネジメントによって経営資源の配分の決定および業績の評価に定期的に使用されているものです。

トヨタの世界的事業の主要部分は、自動車および金融で成り立っています。自動車セグメントでは、セダン、ミニバン、コンパクト、SUV、トラック等の自動車とその関連部品・用品の設計、製造および販売を行っています。金融セグメントでは、主として当社および当社の関係会社が製造する自動車および他の製品の販売を補完するための金融ならびに車両のリース事業を行っています。その他セグメントでは、情報通信事業等を行っています。

## (2) 報告セグメントの収益および業績

前第3四半期連結累計期間(2021年12月31日に終了した9ヶ月間)

(単位:百万円)

	自動車	金融	その他	消去	連結
営業収益					
外部顧客への営業収益	21,148,088	1,717,697	401,256	-	23,267,041
セグメント間の営業収益	50,909	17,083	361,298	429,289	-
計	21,198,996	1,734,780	762,553	429,289	23,267,041
営業費用	19,245,851	1,179,624	742,216	432,486	20,735,205
営業利益	1,953,145	555,156	20,337	3,197	2,531,835

当第3四半期連結累計期間(2022年12月31日に終了した9ヶ月間)

(単位:百万円)

	自動車	金融	その他	消去	連結
営業収益					
外部顧客への営業収益	24,967,263	2,080,183	416,587	-	27,464,033
セグメント間の営業収益	33,248	17,948	429,059	480,255	-
計	25,000,512	2,098,131	845,646	480,255	27,464,033
営業費用	23,278,719	1,774,134	788,459	475,375	25,365,938
営業利益	1,721,792	323,996	57,187	4,880	2,098,095

前第3四半期連結会計期間（2021年12月31日に終了した3ヶ月間）

（単位：百万円）

	自動車	金融	その他	消去	連結
営業収益					
外部顧客への営業収益	7,066,240	581,323	138,179	-	7,785,742
セグメント間の営業収益	7,649	6,981	128,773	143,403	-
計	7,073,889	588,304	266,951	143,403	7,785,742
営業費用	6,478,521	397,612	268,081	142,842	7,001,371
営業利益・損失（ ）	595,368	190,692	1,129	561	784,370

当第3四半期連結会計期間（2022年12月31日に終了した3ヶ月間）

（単位：百万円）

	自動車	金融	その他	消去	連結
営業収益					
外部顧客への営業収益	8,857,703	734,765	162,217	-	9,754,685
セグメント間の営業収益	13,726	6,978	149,990	170,693	-
計	8,871,429	741,742	312,207	170,693	9,754,685
営業費用	8,052,625	616,683	293,715	164,991	8,798,033
営業利益	818,803	125,059	18,492	5,702	956,652

各セグメントにおける会計方針は、トヨタの要約四半期連結財務諸表における会計方針と一致しています。事業別セグメント間取引は、通常の業務上行う取引条件で行っています。

## (3) 地域に関する情報

前第3四半期連結累計期間(2021年12月31日に終了した9ヶ月間)

(単位:百万円)

	日本	北米	欧州	アジア	その他	消去	連結
営業収益							
外部顧客への 営業収益	6,234,442	8,098,617	2,763,928	4,169,628	2,000,427	-	23,267,041
所在地間の 営業収益	5,653,996	174,681	123,589	513,405	94,375	6,560,046	-
計	11,888,437	8,273,298	2,887,517	4,683,033	2,094,802	6,560,046	23,267,041
営業費用	10,682,825	7,720,703	2,751,058	4,183,424	1,894,929	6,497,732	20,735,205
営業利益	1,205,613	552,595	136,459	499,609	199,874	62,314	2,531,835

当第3四半期連結累計期間(2022年12月31日に終了した9ヶ月間)

(単位:百万円)

	日本	北米	欧州	アジア	その他	消去	連結
営業収益							
外部顧客への 営業収益	6,298,816	10,236,949	2,937,082	5,423,302	2,567,885	-	27,464,033
所在地間の 営業収益	6,473,378	225,462	131,001	709,701	75,533	7,615,076	-
計	12,772,194	10,462,411	3,068,084	6,133,003	2,643,418	7,615,076	27,464,033
営業費用	11,230,847	10,551,421	3,051,369	5,572,630	2,467,387	7,507,716	25,365,938
営業利益・損失( )	1,541,347	89,010	16,714	560,374	176,031	107,360	2,098,095

## 前第3四半期連結会計期間（2021年12月31日に終了した3ヶ月間）

（単位：百万円）

	日本	北米	欧州	アジア	その他	消去	連結
営業収益							
外部顧客への 営業収益	2,087,102	2,543,311	958,482	1,528,995	667,852	-	7,785,742
所在地間の 営業収益	2,009,096	50,468	41,793	210,655	34,376	2,346,389	-
計	4,096,198	2,593,779	1,000,275	1,739,650	702,228	2,346,389	7,785,742
営業費用	3,699,676	2,464,482	917,541	1,564,437	650,512	2,295,277	7,001,371
営業利益	396,522	129,297	82,734	175,213	51,716	51,112	784,370

## 当第3四半期連結会計期間（2022年12月31日に終了した3ヶ月間）

（単位：百万円）

	日本	北米	欧州	アジア	その他	消去	連結
営業収益							
外部顧客への 営業収益	2,325,214	3,517,940	1,117,901	1,924,807	868,823	-	9,754,685
所在地間の 営業収益	2,257,022	70,964	37,797	259,181	38,280	2,663,244	-
計	4,582,236	3,588,903	1,155,699	2,183,988	907,103	2,663,244	9,754,685
営業費用	3,898,817	3,606,882	1,093,004	2,015,261	840,989	2,656,920	8,798,033
営業利益・損失（ ）	683,419	17,979	62,695	168,727	66,114	6,325	956,652

（注）「その他」は、中南米、オセアニア、アフリカ、中近東からなります。

上記の金額は、当社または連結子会社の所在国の位置を基礎とした地域別に集計されています。所在地間取引は、通常の業務上行う取引条件で行っています。

## (4) 外部顧客の所在地別営業収益

トヨタは、IFRSで要求される情報に加え、財務諸表利用者に有用な情報を提供するため、当該情報を開示しています。

		金額：百万円	
		12月31日に終了した9ヶ月間	
		2021年	2022年
日本		4,817,586	4,583,412
北米		8,251,303	10,258,864
欧州		2,619,756	2,837,590
アジア		4,363,610	5,520,098
その他		3,214,786	4,264,068
	合計	23,267,041	27,464,033

		金額：百万円	
		12月31日に終了した3ヶ月間	
		2021年	2022年
日本		1,598,382	1,680,400
北米		2,603,672	3,532,459
欧州		900,608	1,070,624
アジア		1,588,172	1,949,660
その他		1,094,908	1,521,543
	合計	7,785,742	9,754,685

(注) 「その他」は、中南米、オセアニア、アフリカ、中近東ほかからなります。

## 6. 公正価値測定

### (1) 公正価値ヒエラルキーの定義

トヨタはIFRSに基づき、公正価値の測定を、それに用いたインプットの観察可能性および重要性によって以下の3つのレベルに分類しています。

レベル1：活発な市場における同一資産および負債の市場価格

レベル2：レベル1以外の、観察可能な価格を直接または間接的に使用して測定した公正価値

レベル3：観察不能なインプットを用いて測定した公正価値

### (2) 公正価値の測定方法

資産および負債の公正価値は、関連市場情報および適切な評価方法を使用して決定しています。

資産および負債の公正価値の測定方法および前提条件は、次のとおりです。

#### 現金及び現金同等物

現金同等物は、契約上の満期が3ヶ月以内のマネー・マーケット・ファンド等から構成されています。通常の事業において、ほとんどすべての現金及び現金同等物は極めて流動性が高く、購入時点から満期日までの期間が短期であり、その公正価値は帳簿価額と近似しています。

#### 営業債権及びその他の債権、営業債務及びその他の債務

これらの公正価値は、短期間で決済されるため、帳簿価額と近似しています。

#### 金融事業に係る債権

金融事業に係る債権の公正価値は、期限前返済率、予想信用損失および担保価値など、社内の仮定を用いて、将来キャッシュ・フローを現在価値に割り引くことにより見積もっています。

金融事業に係る債権の公正価値は、これらの観察不能なインプットを利用しているため、レベル3に分類しています。

#### その他の金融資産

##### (公社債)

公社債には国債等が含まれ、2022年3月31日および2022年12月31日現在、その構成割合は、それぞれ国内債券26%、米国・欧州などの海外債券74%、および国内債券29%、米国・欧州などの海外債券71%となっています。これらは主に、それぞれ同一資産の市場価格により測定しています。

##### (株式)

株式は2022年3月31日および2022年12月31日現在、それぞれ85%および87%が日本市場の上場株式です。これらは主に、それぞれ同一資産の市場価格により測定しています。したがって、活発な市場のある株式はレベル1に分類しています。

活発な市場のない株式の公正価値は、マーケットアプローチ等に基づく評価等を用いて測定しています。したがって、活発な市場のない株式はレベル3に分類しています。

レベル3に区分された株式の公正価値の測定に関する重要な観察不能なインプットは、類似企業の株価純資産倍率および割引キャッシュ・フロー法に用いられる割引率等です。公正価値は類似企業の株価純資産倍率の上昇（低下）、割引率の低下（上昇）により増加（減少）します。なお、観察不能なインプットを合理的に考え得る代替的な仮定に変更した場合に見込まれる公正価値の増減は重要ではありません。

これらの見積りに当たっては、それぞれの場合に照らして妥当と思われる評価方法に基づいていますが、発行企業の財務状況および将来の展望、取引の成否等の重要な仮定に対する不確実性や、異なる仮定および見積方法を用いることにより、公正価値が大きく変化することがあります。

レベル3に区分された株式は、トヨタの連結決算会計方針に従い、トヨタの担当部門が四半期ごとに入手可能な情報を用いて測定し、公正価値の変動の根拠と併せて上位者に報告がなされています。

#### デリバティブ金融商品

トヨタは、金利および為替の変動によるリスクを管理するために、先物為替予約取引、通貨オプション取引、金利スワップ取引、金利通貨スワップ取引および金利オプション取引等のデリバティブ金融商品を利用しています。デリバティブ金融商品は主に、金利、為替レートなどの観察可能な市場情報および契約条項を利用した標準的な評価手法を用いて測定しており、測定に重要な判断を必要としません。これらのデリバティブ金融商品はレベル2に分類しています。観察可能な市場情報を入手できない場合には、取引相手から入手した価格やその他の市場情報により測定し、観察可能な市場情報を用いて当該価格の変動の妥当性を検証しています。これらのデリバティブ金融商品はレベル3に分類しています。また、倒産確率などを用い、取引相手およびトヨタの信用リスクを考慮して測定しています。

#### 有利子負債（短期借入債務および長期借入債務）

特別目的事業体を通じて行った証券化取引に基づく担保付きの借入金（以下、証券化に基づく借入金という。）を除く、短期借入債務および長期借入債務（1年以内に返済予定の長期借入債務を含む）の公正価値は、類似した負債をトヨタが新たに借入れる場合に適用される利率を用いて、将来キャッシュ・フローを現在価値に割引くことにより見積もっています。当該観察可能なインプットの利用により、公正価値はレベル2に分類しています。

証券化に基づく借入金の公正価値は、主として直近の市場レートおよび支払期日が類似する債務の信用スプレッドに基づいて見積もられます。また、トヨタは証券化された原債権に対して支払われるキャッシュ・フローのタイミングを見積もるために、期限前返済率や予想信用損失など、社内の仮定も用います。証券化に基づく借入金の公正価値については、これらの観察不能なインプットを利用している場合、レベル3に分類しています。

## (3) 継続的に公正価値で測定する金融商品

トヨタが継続的に公正価値で測定している金融商品は次のとおりです。なお、公正価値のレベル間振替は、振替を生じさせた事象又は状況の変化の日に認識されています。

	金額：百万円			
	2022年3月31日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
その他の金融資産：				
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
公社債	61,376	96,136	1,674	159,186
株式	-	-	149,890	149,890
デリバティブ金融商品	-	419,173	-	419,173
その他	307,446	158,355	-	465,801
合計	368,822	673,665	151,563	1,194,051
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
公社債	3,542,949	2,739,591	20,178	6,302,719
株式	3,162,805	-	169,404	3,332,209
その他	9,505	139	-	9,644
合計	6,715,259	2,739,730	189,583	9,644,571
その他の金融負債：				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ金融商品	-	497,198	-	497,198
合計	-	497,198	-	497,198

	金額：百万円			
	2022年12月31日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
その他の金融資産：				
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
公社債	83,717	76,421	4,501	164,639
株式	-	-	169,263	169,263
デリバティブ金融商品	-	747,541	-	747,541
その他	299,205	153,426	-	452,631
合計	382,922	977,388	173,764	1,534,075
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
公社債	4,026,634	2,414,479	29,357	6,470,471
株式	3,041,959	-	174,958	3,216,916
その他	7,248	-	-	7,248
合計	7,075,841	2,414,479	204,315	9,694,635
その他の金融負債：				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ金融商品	-	547,948	-	547,948
合計	-	547,948	-	547,948

## (4) レベル3に分類された継続的に公正価値で測定する金融商品の変動

レベル3に分類された継続的に公正価値で測定している金融資産および負債の変動の内訳は次のとおりです。

金額：百万円

	2021年12月31日に終了した9ヶ月間			
	公社債	株式	デリバティブ 金融商品	合計
期首残高	27,623	638,917	-	666,540
利得または損失( )				
純損益	137	55,674	-	55,812
その他の包括利益	-	11,070	-	11,070
購入および発行	955	15,733	-	16,688
売却および決済	1,738	1,945	-	3,683
レベル3へ(から)の振替	5,195	512,465	-	517,661
その他	2,541	48,491	-	51,032
四半期末残高	24,323	255,475	-	279,797

金額：百万円

	2022年12月31日に終了した9ヶ月間			
	公社債	株式	デリバティブ 金融商品	合計
期首残高	21,852	319,294	-	341,146
利得または損失( )				
純損益	183	11,548	-	11,365
その他の包括利益	-	8,396	-	8,396
購入および発行	2,496	14,534	-	17,029
売却および決済	1,462	12,172	-	13,634
レベル3へ(から)の振替	3,101	-	-	3,101
その他	8,054	19,414	-	27,468
四半期末残高	33,858	344,221	-	378,079

なお、公社債、株式およびデリバティブ金融商品の純損益計上額は金融事業にかかる取引を除き、要約四半期連結損益計算書上、それぞれ「その他の金融収益」および「その他の金融費用」に含めて計上しています。金融事業にかかる取引については、それぞれ「金融事業に係る金融収益」および「金融事業に係る金融費用」に含めて計上しています。

上記のデリバティブ金融商品は、資産と負債( )を合計して純額で表示しています。

2021年12月31日および2022年12月31日に終了した9ヶ月間における「その他」には、外貨換算調整額が含まれています。

2021年12月31日に終了した9ヶ月間に認識された株式のレベル3へ(から)の振替は、投資先が取引所に上場したことによるものです。

## (5) 償却原価で測定する金融資産および金融負債

償却原価で測定している金融資産および金融負債の帳簿価額と公正価値は次のとおりです。

金額：百万円					
2022年3月31日					
	帳簿価額	公正価値			合計
		レベル1	レベル2	レベル3	
金融事業に係る債権 有利子負債	21,764,457	-	-	22,074,593	22,074,593
長期借入債務 (1年以内返済予定 含む)	21,970,573	-	17,899,087	3,824,531	21,723,618

  

金額：百万円					
2022年12月31日					
	帳簿価額	公正価値			合計
		レベル1	レベル2	レベル3	
金融事業に係る債権 有利子負債	24,267,057	-	-	24,140,497	24,140,497
長期借入債務 (1年以内返済予定 含む)	23,531,837	-	17,973,282	4,824,700	22,797,982

上記の表には、償却原価で測定する金融資産および金融負債のうち、帳簿価額が公正価値と近似するものを含めていません。

## 7. 配当金

配当金支払額は、次のとおりです。

前第3四半期連結累計期間（2021年12月31日に終了した9ヶ月間）

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年5月12日 取締役会	普通株式	377,453	135.00	2021年3月31日	2021年5月28日
2021年11月4日 取締役会	普通株式	332,419	120.00	2021年9月30日	2021年11月25日

(注) 2021年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っています。「1株当たり配当額」については、当該株式分割前の金額を記載しています。

当第3四半期連結累計期間（2022年12月31日に終了した9ヶ月間）

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年5月11日 取締役会	普通株式	385,792	28.00	2022年3月31日	2022年5月27日
2022年11月1日 取締役会	普通株式	342,187	25.00	2022年9月30日	2022年11月22日

## 8. 営業収益

外部顧客向け営業収益の事業別・商品別内訳は次のとおりです。

	金額：百万円	
	12月31日に終了した9ヶ月間	
	2021年	2022年
商品・製品売上収益		
自動車事業		
車両	17,452,948	20,937,299
生産用部品	1,107,661	1,300,447
部品	1,782,142	2,113,664
その他	805,337	615,854
自動車事業合計	21,148,088	24,967,263
その他の事業	401,256	416,587
商品・製品売上収益合計	21,549,344	25,383,850
金融事業に係る金融収益	1,717,697	2,080,183
営業収益合計	23,267,041	27,464,033

	金額：百万円	
	12月31日に終了した3ヶ月間	
	2021年	2022年
商品・製品売上収益		
自動車事業		
車両	5,736,667	7,434,573
生産用部品	393,805	450,954
部品	637,934	734,766
その他	297,835	237,411
自動車事業合計	7,066,240	8,857,703
その他の事業	138,179	162,217
商品・製品売上収益合計	7,204,419	9,019,920
金融事業に係る金融収益	581,323	734,765
営業収益合計	7,785,742	9,754,685

9. 1 株当たり情報

基本的小および希薄化後 1 株当たり親会社の所有者に帰属する四半期利益の差異の調整は次のとおりです。

	金額：百万円	単位：千株	金額：円
	親会社の所有者に 帰属する 四半期利益	加重平均 普通株式数	1 株当たり親会社の 所有者に帰属する 四半期利益
2021年12月31日に終了した9ヶ月間：			
親会社の所有者に帰属する四半期利益 基本的 1 株当たり	2,316,222		
親会社の所有者に帰属する四半期利益	2,316,222	13,915,170	166.45
希薄化の影響			
希薄化効果を有する種類株式	23	413	
希薄化後 1 株当たり 親会社の所有者に帰属する四半期利益	2,316,244	13,915,583	166.45
2022年12月31日に終了した9ヶ月間：			
親会社の所有者に帰属する四半期利益 基本的 1 株当たり	1,899,026		
親会社の所有者に帰属する四半期利益	1,899,026	13,684,169	138.78
希薄化の影響			
希薄化効果を有する種類株式	-	-	
希薄化後 1 株当たり 親会社の所有者に帰属する四半期利益	-	-	-
2021年12月31日に終了した3ヶ月間：			
親会社の所有者に帰属する四半期利益 基本的 1 株当たり	791,738		
親会社の所有者に帰属する四半期利益	791,738	13,845,538	57.18
希薄化の影響			
希薄化効果を有する種類株式	-	-	
希薄化後 1 株当たり 親会社の所有者に帰属する四半期利益	-	-	-
2022年12月31日に終了した3ヶ月間：			
親会社の所有者に帰属する四半期利益 基本的 1 株当たり	727,942		
親会社の所有者に帰属する四半期利益	727,942	13,632,403	53.40
希薄化の影響			
希薄化効果を有する種類株式	-	-	
希薄化後 1 株当たり 親会社の所有者に帰属する四半期利益	-	-	-

- (注) 1 2021年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っています。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、基本的1株当たり親会社の所有者に帰属する四半期利益および希薄化後1株当たり親会社の所有者に帰属する四半期利益を算定しています。
- 2 2021年4月2日に第1回AA型種類株式の残存する全部の取得および2021年4月3日に第1回AA型種類株式の全部の消却を完了しており、2021年12月31日に終了した3ヶ月間、2022年12月31日に終了した9ヶ月間および3ヶ月間において、潜在株式が存在しないため希薄化後1株当たり親会社の所有者に帰属する四半期利益は記載していません。

10. キャッシュ・フローに関する補足情報

前第3四半期連結累計期間および当第3四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローの「その他」には、定期預金の純増減額（は増加）がそれぞれ1,868,709百万円および165,863百万円含まれています。

## 11. 偶発債務

トヨタは、トヨタの製品販売にあたり、販売店と顧客が締結した割賦契約について、販売店の要請に応じ顧客の割賦債務の支払いに関し保証を行っています。顧客が必要な支払いを行わない場合には、トヨタに保証債務を履行する責任が発生します。

将来の潜在的保証支払額は、2022年12月31日現在、最大で3,551,820百万円です。トヨタは、保証債務の履行による損失の発生に備え未払費用を計上しており、2022年12月31日現在の残高は、19,736百万円です。保証債務を履行した場合、トヨタは、保証の対象となった主たる債務を負っている顧客から保証支払額を回収する権利を有します。

トヨタと他の自動車メーカーは、タカタ製エアバッグ問題に関し、メキシコ、オーストラリア、イスラエルおよびブラジルの集団訴訟で名前を挙げられていました。イスラエル、ブラジルの集団訴訟は係属中です。メキシコ、オーストラリアの集団訴訟は解決済です。

トヨタは、オーストラリアにおいて、特定の車両モデルの排ガス浄化フィルターに欠陥があるとの主張に基づく経済的損失に関する集団訴訟で被告として名前を挙げられています。2022年4月7日に、一審において特定の車両モデルに関する車両価値毀損等の敗訴判決を受けました。トヨタは今回の判決を不服として控訴しました。なお、車両価値毀損以外の経済的損失については引き続き一審で係争中です。トヨタは、本件の結果として要約四半期連結財務諸表に計上すべき引当金を算定する際に、当訴訟の法的小よび事実上の状況、一審の判決内容、弁護士の見解等のさまざまな要素を考慮しています。当訴訟に関わる発生可能性の高い経済的便益の流出の見積りは、トヨタの連結の財政状態、経営成績、キャッシュ・フローにとって重要ではありません。但し、現時点で、最終的な結果とそれに伴う金銭的負担を確実に予測することはできません。

2020年4月、トヨタは、タイ子会社に関する贈賄禁止違反の可能性について米国証券取引委員会および司法省に報告し、調査に協力しています。本件に関する調査の結果、民事罰、刑事罰、罰金、その他の制裁を課せられ、または訴訟を提起される可能性があります。現時点で、本件の範囲、期間、結果を予測することはできません。

この他にも、トヨタに対して、知的財産訴訟や、米国における人身傷害や死亡に関わる訴訟および請求を含む、様々な訴訟や請求があり、また、トヨタは行政調査の対象となる場合もあります。

トヨタは、上述の訴訟等に関して見積計上した金額以上の合理的な可能性がある損失の範囲を現時点で予測することはできません。その理由は以下のとおりです。(1)多くの訴訟手続が証拠収集の段階にあること、(2)関連する多くの事実関係が確定される必要があること、(3)申し立ての法的根拠および性質が不明であること、(4)申し立てや上訴に対する今後の裁判所の判断が不明であること、(5)同種の他の案件の結果が様々で、意味ある指針となるような十分な類似性を見出せないことによります。そのため、解決のため協議をおこなっているこれらの訴訟および調査等の結果により、見積計上した金額以上の損失が生じた場合、トヨタの財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローに悪影響を及ぼす可能性があります。

## 2 【その他】

2022年11月1日開催の取締役会において、2022年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対して行う中間配当につき、次のとおり決議しました。

### 中間配当総額

普通株式	342,187,174,100円
------	------------------

### 1株当たり中間配当

普通株式	25円00銭
------	--------

支払請求の効力発生日および支払開始日	2022年11月22日
--------------------	-------------

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月13日

トヨタ自動車株式会社  
取締役会 御中

P W C あらた 有限責任監査法人  
名古屋事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 加藤 真美

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 手塚 謙二

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山口 健志

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中谷 聡子

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているトヨタ自動車株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、トヨタ自動車株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 . 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。